

県内初！

謎に包まれた大きな穴



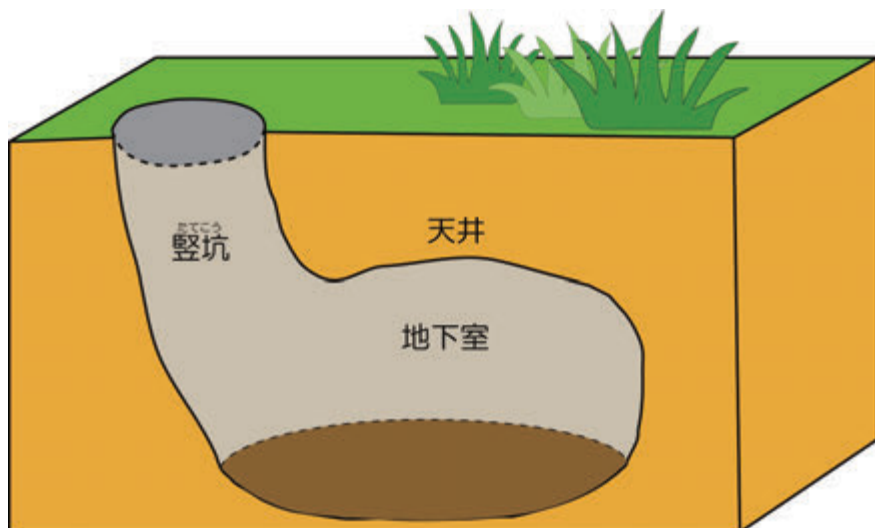
なが よし てん じん だん 永吉天神段遺跡 (大崎町永吉)



中世（戦国時代）の大型土坑（地下式の穴）が見つかりました。

下に向かって^{たてあな} 縦穴を掘り、その後横に向かって地下室を掘るもので、断面は^{ながぐつ} 長靴の形に似ています。大型で、^{じゅうおう} 縦横2m以上、深さは3mを超えるものもあります。関東で多く発見され、九州内では^{ふくおか} 福岡、^{さが} 佐賀、^{くまもと} 大分、熊本県で数多く発見されていますが、県内では初めてです。

用途としては、①死者を葬るための墓、②僧が自ら土中に埋まり、死ぬための場所、③物を保管する^{ちよそう しせつ} 貯蔵施設、④^{かく} 身を隠すための^{ひなん} 避難施設等が考えられています。①②③④が考えられていますが、^{なぞ} 謎が多い土坑です。



大型土坑の模式図